

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成27年11月18日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 情報学研究科

職 名 教授

氏 名 石 田 亨

助成の種類	平成27年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成			
事業内容	文化とコンピューティング国際会議 2015 International Conference on Culture and Computing 2015			
開催期間	平成27年10月17日 ～ 平成27年10月19日			
開催場所	京都大学百周年時計台記念館(京都市左京区吉田本町)			
参加者	総数	内 訳		
	88名	国内47名 海外41名 (22カ国)		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プロシーディングス)			
会計報告	事業に要した経費総額	3,898,720 円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円		
	その他の資金の出所	テレコム先端技術研究支援センター、電気通信普及財団 出席者参加費、京都大学運営費交付金		
	経費の内訳と助成金の使途について			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		会場費	956,100	105,479
		旅費交通費 基調講演者・招待講演者	257,105	257,105
		謝金 講演・実演	150,000	
		謝金 運営補助アルバイト	143,000	
		印刷製本費 プロシーディングス	637,416	637,416
	消耗品費	118,563		
	その他 カード決済手数料等	116,002		
	会議費 コーヒーブレイク・カンファレンスランチ	254,427		
	交流費 パンケット・レセプション・エクスカーション	1,266,107		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)			

2015年文化とコンピューティング国際会議は2015年10月17日（土）～19日（月）に、京都大学百周年時計台記念館にて開催された。本会議は、文化とコンピューティングに関わる問題意識や研究成果を共有することを目的としており、2010年に第1回国際会議を開催してから、今回で第5回目の開催となる。2011年以降は、2年に一度京都で開催される持続性のある本格的な国際会議に成長させてきた経緯があり、京都で開催されない年に他の都市から招待があれば、会議の開催を行うこととしている。2015年度の参加者は、22ヶ国から合計88名（国内47名、海外41名）の参加があり、これまでで最も海外からの参加者の比率が高く、国際色豊かな会議となった。

論文発表は、情報学、人文科学諸分野、芸術など様々な分野からの投稿があった。質の高い論文を厳選し論文集をIEEE Computer SocietyのConference Publishing Servicesにより発行した。具体的には、22件のフルペーパー、7件のショートペーパー、13件のポスター、4件のデモの合計46本の論文を採択した。フルペーパー及びショートペーパーは、文化とコンピューティングの多くの側面を参加者全員が共有できるようにシングルセッションの口頭発表とし、三日間を通して活発な議論が行われた。この中には、The city's intangible cultural heritageというテーマのオーガナイズセッションが含まれ、文化的景観などの無形の都市遺産とコンピューティングに関する発表と、活発な意見交換が行われた。ポスターセッションとデモセッションはランチの時間を使ってテーマ展示と併設で実施し、参加者の交流の場となった。

テーマ展示は、文化と起源展というテーマで17日から19日まで三日間にわたって、五つの作品を融合したインスタレーション形式で実施した。具体的には、京都大学学生でありゴリラ専門の写真家でもある大塚亮真氏による写真パネル、有職菓子御調進所「老松」主人の太田達博士による京菓子展示、未生流笹岡家元の笹岡隆甫氏による生け花展示、元京都大学低温物質科学研究センター長の前川覚名誉教授による液体窒素スクリーン、メディアアートの土佐尚子教授らの映像作品を組み合わせ、人類の起源である森に見立てた環境を構築した。

17日午前の基調講演では、国立研究開発法人産業技術総合研究所の後藤真孝博士に、Music Cultures Opened up by Music Technologiesというタイトルで講演いただいた。人の歌唱から音声合成パラメータを自動推定するシステムVocal Listenerや、音楽・音声の音響信号の自動理解と、それに基づくユーザインターフェースに関する研究についての解説があり、情報学の視点からの文化とコンピューティングに関する知見が得られた。

18日午前の招待講演では、オーストラリア、メルボルン大学建築計画専攻のMark Burry教授に、Antoni Gaudí and his Role in Forming a Traditional Craft and Digital Culture Continuumというタイトルで講演いただいた。Mark Burry教授はスペイン・バルセロナにあるサグラダファミリア寺院の幹部建築士と研究員を兼任されており、計算機を用いた寺院設計者アントニオ・ガウディのデザインの数学的理解と、建築プロセスの高速化について紹介いただいた。建築学・数学・情報学と文化的・歴史的建造物の融合という、文化とコンピューティングというテーマにおいて重要な知見が得られた。

17日夜には、展示会場にてレセプションを実施し、有職菓子御調進所「老松」主人の太田達博士による和菓子製作と、製作した和菓子を神前に供える儀式を実演いただいた。また、文

化と起源展の展示者各自の紹介とトークも行われた。

18日午後には、エクスカーションとして狂言鑑賞を実施した。京都市内の能楽堂「嘉祥閣」において、狂言大蔵流の名門である茂山千五郎家の狂言師による「棒縛り」という演目の鑑賞と、狂言についての基礎知識や歴史についての解説がなされた。狂言鑑賞後には、京都市内の日本料理屋「萬重」にてバンケットを開催し、参加者同士の活発な交流が行われた。

以上のように、情報学、人文科学諸分野、芸術といった多様な分野から、品質の高い論文発表が行われるとともに、文化とコンピューティングに深く関係する基調講演と招待講演が行われるなど学術的にもレベルが高く、テーマ展示とレセプションの京菓子奉納、狂言鑑賞のエクスカーションなど、大きな文化的意義も併せ持つ国際会議を実現することができた。今後も文化とコンピューティングに関する高いレベルの研究コミュニティの維持を目的として、京都を中心とした隔年での開催を続ける予定である。



テーマ展示「文化と起源展」



基調講演の様子



ポスター発表の様子



レセプションの京菓子製作実演